World Trends

発表日：2020 年7月7日（火）

ブラジル・ボウソナロ大統領も感染か⁉、新型肺炎の収束は未だみえず

～大統領は検査実施を認めるも感染を否定、防疫政策を巡る混乱はまだまだ続く可能性が高い～

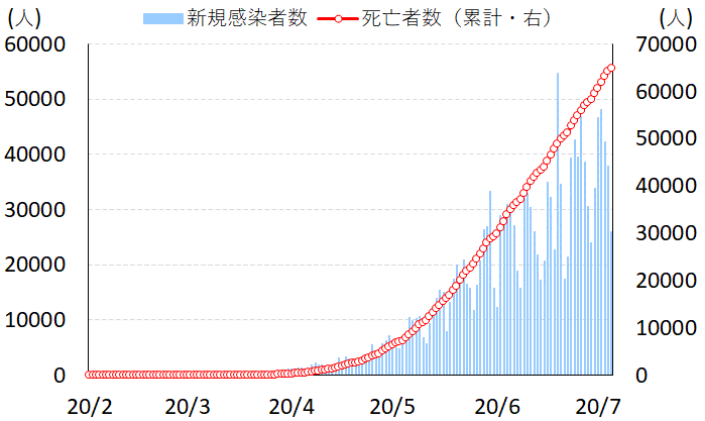
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 西濵 徹（TEL：03-5221-4522）

（要旨）

- 昨年末に中国で発見された新型コロナウイルスは感染拡大の中心地が新興国にシフトし、足下でブラジルはそのど真ん中にある。防疫政策を巡る混乱が事態悪化を招いたとみられるなか、新型肺炎を軽んじる発言を繰り返すボウソナロ大統領が感染したとの報道も出た。大統領は検査実施を認めるも、引き続き「強い大統領像」をアピールする姿勢をみせる。通貨レアル相場は外部環境次第の展開が続くなか、企業マインドの底打ちを示唆する動きもみられるが、先行きは新型肺炎の状況が左右する不透明な状況が続くであろう。

昨年末に中国で発見された新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）を巡っては、感染拡大の中心地が新興国にシフトしており、医療インフラが脆弱な上、今後は季節が冬に移行する南半球での感染拡大は事態収束を困難にすることが懸念される。なかでもブラジルについては、累計の感染者数が 160 万人を上回り、死亡者数も 6.5 万人に迫るなどともに米国に次ぐ水準となっている上、足下では新規の感染者及び死亡者数の拡大ペースは世界で最も高くなるなど、感染爆発による医療崩壊状態に陥っている。このように同国が新型肺炎感染拡大の中心地となっている背景には、当初の段階で感染拡大の動きがみられたサンパウロ州など地方政府レベルで都市封鎖などの措置が採られる一方、ボウソナロ（Bolsonaro）大統領は自身のＳＮＳなどを通じて経済活動を優先するキャンペーンを展開するなど、防疫政策を巡る混乱も影響したと考えられる。さらに、ボウソナロ政権の防疫政策を担う保健相は、自主隔離を呼び掛けるなど政策強化を指示したマンデッタ（Mandetta）氏は大統領との意見対立を理由に更迭、後任のタイシ（Teich）氏も抗マラリア薬（ヒドロキシクロロキン）の適用を巡って大統領との意見対立を理由に辞表を提出するなど、保健行政を巡る不透明さが表面化したことも事態悪化に拍車を掛ける一因になったと考えられる。また、保健省は先月初めに新型肺炎の感染者数及び死亡者数などのデータ隠ぺいとも取れる動きをみせて政権批判に火を注ぐ格好となったほか、連邦公安庁の申し立てを受けて最高裁判所が保健省に対して完全な形でのデータ公表を求める司法判断を下すなど、保健行政そのものが混乱に陥っている様子もうかがえる。足下の同国における感染拡大の動きは、当初の段階で中心地となった北東部で落ち着きつつあるほか、南東部では頭打ちする兆候が

図１ 新型肺炎の新規感染者数と死亡者数(累計)の推移

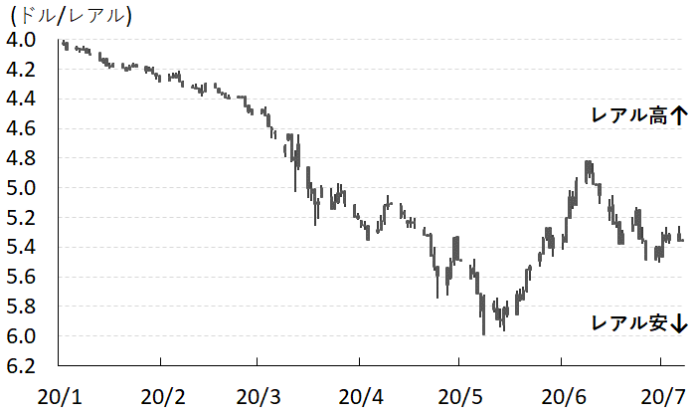


（出所）Refinitiv より第一生命経済研究所作成

みられる一方、中西部や南部で感染拡大の動きが強まるなどほぼすべての州に感染拡大の動きが広がっており、事態収束には相当の時間を要する可能性が高いと見込まれる。こうしたなか、現地報道はボウソナロ大統領に新型肺炎の症状がみられると報じる一方、大統領自身は支持者に対して「病院で検査を受けてきたが肺は『きれいだった』」と語ったほか、本日（７日）にも検査結果が判明する見通しとなっている。ボウソナロ大統領を巡っては、３月に感染が疑われるもその後の検査で陰性が判明したほか、新型コロナウイルスについて繰り返し「ただの風邪」との発言を行い、マスクをせずに公の場に登場するなど『強い大統領像』を示すことで自らの支持層へのアピールを続けてきた。先月末には連邦裁判所がボウソナロ大統領に対して公の場でのマスク着用を命じるとともに、違反した場合に罰金（１日当たり 2000 レアル）を科す司法判断を下したものの、その後の異議申し立て訴訟では控訴裁判所が命令を棄却する判断が下される動きもみられた。

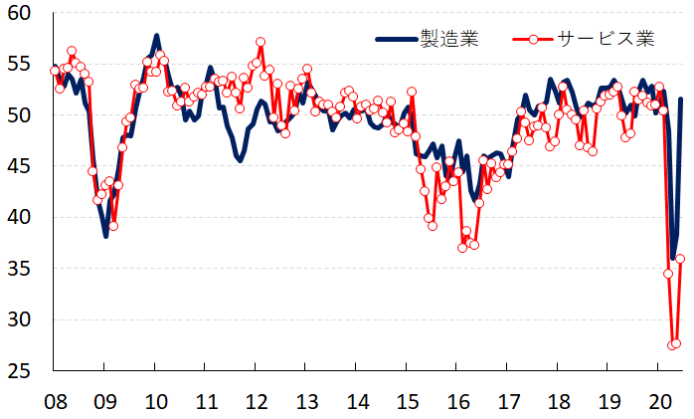
そして、今月初めに政府は議会で成立した公共の場でのマスク着用義務を定めた法律を官報で公示したが、ボウソナロ大統領は憲法違反を理由に商業施設や学校、宗教施設などでのマスク着用義務を定めた条文について拒否権を行使して削除するなど、マスク着用を拒否する姿勢をみせてきた。このように同国の防疫政策、保健政策は行ったり来たりする展開が続いており、事態収束に向けた道筋を描くことは難しい状況にあると判断出来る。なお、通貨レアル相場はブラジル国内の動向以上に国際金融市場を取り巻く環境に左右される傾向が強く、国際原油市況の動きのほか、足下で輸出全体の３割弱を占めるなど最大の輸出相手である中国景気の底打ち期待も下支え要因となる動きがみられる。他方、足下のブラジル経済は経済活動を優先する動きに加え、欧米や中国など主要国での経済活動再開の動きなどを反映して製造業の企業マインドは改善する一方、雇用環境の悪化などを理由にサービス業の企業マインドは低迷する対照的な状況が続いており、依然として新型肺炎を巡る状況を含めて不透明感はくすぶる。ブラジル経済を巡る状況は最悪期を過ぎつつある模様だが、現時点では新型肺炎の行方を含め、先行きの状況は視界不良の状況は変わっていないと捉えられよう。

図 2　レアル相場(対ドル)の推移



（出所）Refinitiv より第一生命経済研究所作成

図 3　製造業・サービス業 PMI の推移



（出所）IHS Markit より第一生命経済研究所作成

以　上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。